

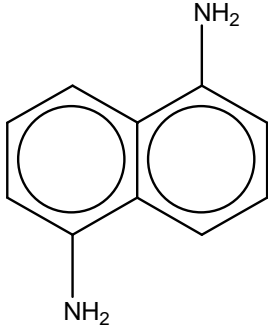
既存化学物質審査シート(人健康影響・生態影響)

(平成20年10月24日開催)

官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	判定結果		頁
			人健康影響	生態影響	
3-503	88-18-6	2 - <i>tert</i> - ブチルフェノール	二監相当		1
4-323	2243-62-1	1, 5 - ジアミノナフタレン	二監相当	三監相当	3
5-256	4979-32-2	<i>N, N</i> - ジシクロヘキシル - 2 - ベンゾチアゾールスルフェン アミド		三監相当でない	7
3-521 3-526	120-95-6	2, 4 - ジ - <i>tert</i> - ペンチルフェノール		三監相当	9
3-3034	19715-19-6	3, 5 - ジ - <i>tert</i> - ブチルサリチル酸		三監相当	11
5-725	462-08-8	3 - アミノピリジン		三監相当	13
3-4585	97042-18-7	4 - {[4 - (アリルオキシ)フェニル]スルホニル}フェノール	二監相当でない 【告示済み】	三監相当	15

他の試験	<p>“Elevated susceptibility of newborn as compared with young rats to 2-tert-butylphenol and 2,4-di-tert-butylphenol toxicity.”, Hirata-Koizumi M, Hamamura M, Furukawa H, Fukuda N, Ito Y, Wako Y, Yamashita K, Takahashi M, Kamata E, Ema M, Hasegawa R., Congenit Anom (Kyoto). Dec;45(4):146-153, (2005)</p> <p>SD ラット 強制経口 (20, 60, 200 mg/kg/day) 新生児 18 日間 (生後 4-21 日)</p> <p>純度 99.97%</p> <p>NOAEL : 20 mg/kg/day</p> <p>一般状態 (自発運動 : 60 以上 200 、 歩行失調・呼吸深大・筋力 : 200)</p> <p>体重 : 200</p> <p>血液生化学的検査 (GTP : 200 、 TP : 200)</p> <p>相対重量 (肝 : 60 以上 200)</p> <p>組織学的所見 (肝-小葉中心性肝細胞肥大 [軽微] : 60 以上 200)</p>
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL20mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-323	CAS No.	2243-62-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1,5-ジアミノナフタレン <div style="text-align: center;">  </div>		
用途	-		
外観	灰紫色結晶性粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影響の毒性情報	【“Bioassay of 1,5-naphthalenediamine for possible carcinogenicity.”, National Toxicology Program (NTP), Natl Cancer Inst Carcinog Tech Rep Ser, 143:1-123 (1978) より引用】 発がん性試験 Fischer 344 ラット(0.05, 0.1% 103 週混餌投与)106 ~ 107 週まで観察、純度約 89-90% がん原性： であり(陰核腺、子宮) :子宮—内膜間質ポリープ・肉腫(0.05%以上)、陰核腺—腺腫・癌(0.1%) B6C3F1 マウス(0.1, 0.2% 103 週混餌投与)105 ~ 106 週まで観察、純度約 89-90% がん原性:あり[(甲状腺)、 (甲状腺、肝、肺)] :甲状腺—乳頭状腺腫・濾胞細胞腺腫・乳頭状嚢胞腺腫(0.1%以上) :肝—肝細胞癌、肺—細気管支肺胞上皮腺腫(0.1%以上)、 甲状腺—C 細胞癌(0.2%)		

[IARC Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans
Vol:27, 127-132 (1982)より引用]

発がん性試験【NTPによる発がん性試験を引用、再評価】

B6C3F1 マウス(0.1%, 0.2% 103 週混餌投与)105-106 週観察、純度約 89%以上
甲状腺—濾胞細胞腺腫・乳頭状腺腫・乳頭状嚢胞腺腫:0.1%以上、甲状腺—C 細胞癌、肝—肝細胞癌、肺—細気管支肺胞上皮腺腫・癌:0.1%以上
Fischer 344 ラット (0.05%, 0.1% 103 週混餌投与)106-107 週観察、純度約 89%以上
陰核腺—腺腫・癌:0.05%以上

IARCの作業部会では、ラットの試験については、陰核腺腫瘍はわずかな変化であり、組織学的検査は肉眼的に異常がみられた場合のみ実施と言及し、ラットの試験は評価に値しない“inadequate for evaluation”と記載。

反復投与毒性(用量設定試験)

Fischer 344 ラット(3%まで(混餌投与)) 8 週間
死亡:0.3%以上、体重、0.1%以下は異常なし。
B6C3F1 マウス(3%まで(混餌投与)) 8 週間
死亡:0.3%以上、体重、0.2%以下は異常なし。

変異原性試験

Ames 試験(TA100、-S9mix):陽性

発癌性に対する評価:実験動物に限定的な証拠“limited evidence”あり
(There is limited evidence for the carcinogenicity of 1,5-naphthalenediamine in experimental animals.)

[IARC. Monographs on the Evaluation of the Carcinogenic Risk of Chemicals to Man. Geneva: World Health Organization, International Agency for Research on Cancer, 1972-PRESENT. (Multivolume work)., p. S7 67 (1987)

発癌性に対する証拠の程度 “Degree of evidence for carcinogenicity”

Human:適切なデータなし”no adequate data”

Animal: 限定的な証拠”limited evidence”

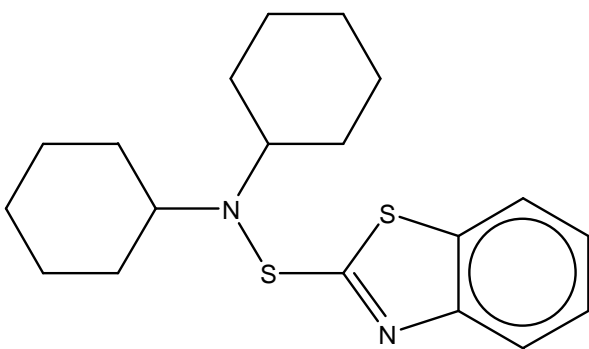
総合評価”overall evaluation”

Group 3: 『ヒトに発がん性を示すとしては分類できない(Not Classifiable as to its Carcinogenic)』。

	<p>["Reproducibility of Microbial Mutagenicity Assays:2. Testing of Carcinogens and Noncarcinogens in Salmonella Typhimurium and Escherichia Coli", Dunkel,Vc, Zeiger,E, Brusick,D, Mccoy,E, Mcgregor,D, Mortelmans,K, Rosenkranz, Hs, and Simmon,Vf; Environ. Mol. Mutagen., 7(Suppl. 5):1-248, (1985)より引用]</p> <p>Ames 試験:陽性 純度 96%以上、溶媒:DMSO、アセトン 菌株:TA98, TA100, TA1535, TA1537, TA1538, WP2 uvra +: With metabolic activation -: Without metabolic activation</p> <p>溶媒:DMSO ・ TA100 -/+群で陽性(1 ~ 1000 µg/plate) ・ TA1537 -/+群で陽性(3.3 ~ 3333.3 µg/plate) ・ TA98 +群で陽性(1 ~ 1000, 3.3 ~ 3333.3 µg/plate) ・ TA1538 +群で陽性(3.3 ~ 3333.3 µg/plate) ・ TA1535, WP2 uvra -/+群で陰性(1 ~ 1000, 3.3 ~ 3333.3 µg/plate)</p> <p>溶媒:アセトン ・ TA98, TA100, TA1535, TA1537, TA1538, WP2 uvra -/+群で陰性(0.3 ~ 333.3 µg/plate)</p> <p>【" Salmonella mutagenicity tests: V. Results from the testing of 311 chemicals.", Zeiger E et. al., Environ Mol Mutagen, 19 (Suppl. 21): 2-141, (1992)より引用]</p> <p>変異原性試験 Ames 試験(TA100, TA98):陽性 純度記載なし -/+S9mix, 10 ~ 3333 µg/plate</p>
<p>人健康影響判定根拠</p>	<p>Ames 試験が陽性であり、ラット、マウス共に発がん性が示されたことから、継続的に摂取される場合人の健康を損なうおそれの疑いがあるため、第二種監視化学物質相当。</p>
<p>藻類生長阻害試験</p>	<p>生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: 化審法 TG (2006) 培養方式: 振とう培養 純度: 98.5 % 試験濃度: 設定濃度 0.046、0.10、0.22、0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.024、0.075、0.18、0.34、0.80、1.7、3.2、6.4 mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 72hEC50 (実測値に基づく) =1.8 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) =0.34 mg/L</p> <p>試験溶液が着色していたため、遮光影響を推定するために試験溶液量を半分(50 ml)に減じた追加試験を行っているが、毒性値は 72hEC50 (実測値に基づく) =1.5 mg/L であり、通常の試験とほぼ同じであったことから、試験実施者は被験物質による遮光影響は大きくないと判断した。</p>
<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験</p>	<p>生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: 化審法 TG 試験方式: 半止水式、24 時間後に換水 純度: 98.5 % 試験濃度: 設定濃度 0.46、0.68、1.0、1.5、2.2、3.2、4.6、6.8 mg/L 実測濃度 0.45、0.68、0.99、1.5、2.2、3.3、4.6、6.6 mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 48hEC50 (実測値に基づく) =3.8 mg/L</p>

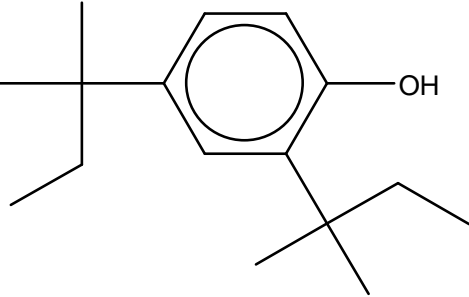
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：98.5 % 試験濃度：設定濃度 5.6、7.5、10、13、18、24、32、42 mg/L 実測濃度 5.7、7.2、9.4、12、17、22、30、38 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 17 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 12mg/L 群：遊泳異常 (48hr 1/10、72hr 10/10、96hr 9/9) 17 mg/L 群：遊泳異常+外見異常 (72hr 1/10、96hr 1/6) 遊泳異常 (48hr 3/10、72hr 9/10、96hr 5/6)</p>
生態影響 判定根拠	<p>芳香族アミンを構造中に有し、かつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=3.8 mg/L、藻類生長阻害試験において 72hEC50=1.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>水溶解度：40 mg/L (20) 蒸気圧：1.73 × 10⁻⁸ mmHg (20)</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-256	CAS No.	4979-32-2
判定結果	生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	<p>名称：N, N - ジシクロヘキシル - 2 - ベンゾチアゾールスルフェンアミド</p> 		
用途	タイヤのスチール部のゴム用加硫促進剤 平成 20 年 3 月 26 日開催 化学物質審議会安全対策部会安全対策小委員会資料		
外観	灰白色細粒		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性		
藻類生長 阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 (1984) 培養方式： 振とう培養 純度： 99.8% 試験濃度： 設定濃度 0.040* mg/L (限度試験) * 調製可能最高濃度 実測濃度 0.012 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 100 μL/L 72hEC50 (実測値に基づく) > 0.012 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 0.012 mg/L (溶解限度で影響が認められなかった。)</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 (1984) 試験方式： 半止水式、 24 時間後に換水 純度： 99.8% 試験濃度： 設定濃度 0.0050、 0.0084、 0.014、 0.024、 0.040* mg/L * 調製可能最高濃度 実測濃度 0.0032、 0.0052、 0.0093、 0.019、 0.031 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 100 μL/L 48hEC50 (実測値に基づく) > 0.031 mg/L (溶解限度で影響が認められなかった。)</p>		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、 毎日換水 純度： 99.8% 試験濃度： 設定濃度 0.0020、 0.0042、 0.0090、 0.019、 0.040* mg/L * 調製可能最高濃度 実測濃度 0.0013、 0.0027、 0.0059、 0.014、 0.033 mg/L (時間加重平均値) 助剤： DMF 100 μL/L 21dNOEC (実測値に基づく) > 0.033 mg/L (溶解限度で影響が認められなかった。)</p>		

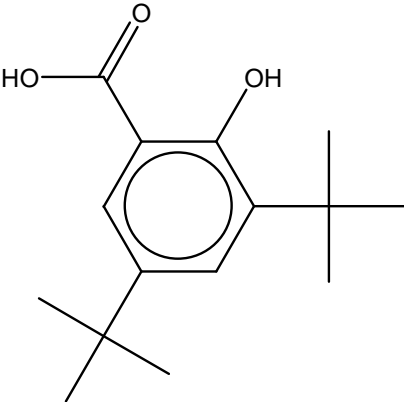
魚類急性毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 (1992) 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.040* mg/L (限度試験) * 調製可能最高濃度 実測濃度 0.033 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50 (実測値に基づく) > 0.033 mg/L (溶解限度で影響が認められなかった。)				
生態影響判定根拠	藻類生長阻害試験、ミジンコ急性遊泳阻害試験、ミジンコ繁殖阻害試験及び魚類急性毒性試験において溶解限度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。				
環境調査 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	H10	0/39	-	0.3(μ g/L)
	底質	H10	0/39	-	0.01(μ g/g-dry)
	魚類	-	-	-	-
備考	1 H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 水溶解度：0.039 mg/L (試験機関測定値)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-521 3-526	CAS No.	120-95-6
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2,4-ジ-tert-ペンチルフェノール 		
用途	中間物、医薬等、合成樹脂用、洗剤等、希釈剤、添加剤(ゴム用、樹脂用、油用) 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査(平成16年実績)		
外観	固体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.7% 試験濃度：設定濃度 0.38、0.68、1.2、2.1、3.8 mg/L 実測濃度 0.16、0.27、0.46、0.88、1.8 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 96 μL/L 72hEC50 (実測値に基づく) = 1.7 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 0.16 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：99.7% 試験濃度：設定濃度 0.034、0.060、0.11、0.19、0.34 mg/L 実測濃度 0.029、0.048、0.094、0.17、0.30 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 48hEC50 (実測値に基づく) = 0.12 mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.7% 試験濃度：設定濃度 0.15、0.27、0.48、0.84、1.5 mg/L 実測濃度 0.11、0.21、0.40、0.72、1.3 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 49 μL/L 96hLC50 (実測値に基づく) = 0.29 mg/L		

生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hEC50 = 1.7 mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.12mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.29mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	試験用水溶解度： 藻類培地： 3.8 mg/L、Elendt M4 medium： 3.4 mg/L、脱塩素水道水： 3.9 mg/L

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-3034	CAS No.	19715-19-6
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3,5-ジ-tert-ブチルサリチル酸 		
用途	中間物、電子材料等製品用（写真、複写機） 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成16年実績）		
外観	白色粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG（2006） 培養方式：振とう培養 純度：96.8% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.9、3.6、6.8、13、25 mg/L 実測濃度 0.87、1.7、3.4、6.4、13、24 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 72hEC50（実測値に基づく）= 6.8 mg/L 72hNOEC（実測値に基づく）= 0.87 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24時間後に換水 純度：96.8% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.99、1.8、3.2、5.5、9.7 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）= 3.2 mg/L		

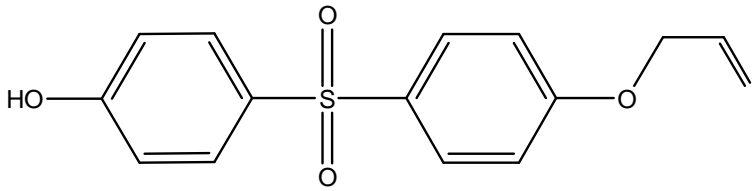
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：96.8% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.97、1.8、3.1、5.5、9.7 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 2.7 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.8 mg/L 群：遊泳異常 (96 hr 1/10)</p>
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>試験用水溶解度： 藻類培地：130 mg/L、Elendt M4 medium：180 mg/L、脱塩素水道水：190 mg/L</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-725	CAS No.	462-08-8
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3 - アミノピリジン 		
用途	-		
外観	特異臭のある白色～僅微赤みの微黄色フレーク		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.9 % 試験濃度：設定濃度 0.010、0.022、0.046、0.10、0.22、0.46、1.0、2.2 mg/L 実測濃度 0.010、0.023、0.051、0.11、0.24、0.51、1.1、2.4 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) =0.73 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) =0.051 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：99.9 % 試験濃度：設定濃度 0.46、1.0、2.2、4.6、10、22、46 mg/L 実測濃度 0.48、1.0、2.3、4.8、10、23、48 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) =7.1 mg/L		

魚類急性毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.9 % 試験濃度：設定濃度 3.2、4.2、5.6、7.5、10、13 mg/L 実測濃度 3.3、4.4、5.7、7.7、10、14 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 8.6 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 4.4 mg/L 群：遊泳異常 (24hr 5/10、48hr 4/10、72hr 4/10、96hr 4/10) 5.7 mg/L 群：遊泳異常+外見異常+呼吸異常 (24hr 1/10、48hr 3/10、72hr 3/10、96hr 4/10) 遊泳異常+呼吸異常 (24hr 8/10、48hr 7/10、72hr 7/10、96hr 6/10) 外見異常+呼吸異常 (24hr 1/10) 7.7 mg/L 群：遊泳異常+外見異常+呼吸異常 (48hr 1/8、72hr 1/8、96hr 1/8) 遊泳異常+呼吸異常 (24hr 10/10、48hr 7/8、72hr 7/8、96hr 7/8)</p>				
生態影響判定根拠	<p>芳香族アミンを構造中に有し、かつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=7.1 mg/L、藻類生長阻害試験において 72hEC50=0.73mg/L、72hNOEC=0.051mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=8.6mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S58	0/30	-	0.1 ~ 2(μg/L)
	底質	S58	0/30	-	0.002 ~ 0.098(μg/g-dry)
	魚類	-	-	-	-
備考	<p>1 S59 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 水溶解度：97,900 mg/L (25) 蒸気圧：0.437 mmHg (25)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-4585	CAS No.	97042-18-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当でない【平成18年11月10日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4 - {[4 - (アリルオキシ)フェニル]スルホニル}フェノール 		
用途	-		
外観	白色粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当でない【新規化学物質として審議済み】 試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 1	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 (1984) 培養方式： 振とう培養 純度： 99.2% 試験濃度： 設定濃度 0.39、0.86、1.9、4.0、8.8、20 mg/L 実測濃度 0.40、0.82、1.8、3.7、7.7、15 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 100 µL/L 72hEC50 (実測値に基づく) = 7.8 mg/L (水溶解度超) 72hNOEC (実測値に基づく) = 1.8 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験 1	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 (1984) 試験方式： 止水式 純度： 99.2% 試験濃度： 設定濃度 1.3、2.5、5.0、10、20 mg/L 実測濃度 1.2、2.4、4.9、9.3、14 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 100 µL/L 48hEC50 (実測値に基づく) = 14 mg/L (水溶解度超)		
ミジンコ 繁殖阻害 試験 1	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 純度： 99.1% 試験濃度： 設定濃度 0.073、0.18、0.45、1.1、2.8 mg/L 実測濃度 0.066、0.16、0.40、1.0、2.5 mg/L (算術平均値) 助剤： DMF 50 µL/L 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.066 mg/L		

魚類急性 毒性試験 1	生物種：ニジマス <i>Oncorhynchus mykiss</i> 試験法：OECD-TG203 (1992) 試験方式：半止水式、毎日換水 純度：99.2% 試験濃度：設定濃度 0.94、1.9、3.8、7.5、15 mg/L 実測濃度 0.86、1.7、3.4、7.1、14 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 96hLC50 (実測値に基づく) = 4.5 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 3.4 mg/L 群：平衡喪失 (48h 2/7、72h 3/7、96 hr 2/7) 体色暗化 (48h 2/7)
魚類初期 生活段階 毒性試験 1	生物種：ファットヘッドミノー <i>Pimephales promelas</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 純度：99.1% 試験濃度：設定濃度 0.01、0.032、0.10、0.32、1.0 mg/L 実測濃度 0.0094、0.024、0.094、0.28、0.77 mg/L (幾何平均値) 助剤：THF 50 μL/L 28dNOEC (死亡率)(実測値に基づく) = 0.094 mg/L
生態影響 判定根拠	ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.066 mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=4.5mg/L、魚類初期生活段階毒性試験において 28dNOEC = 0.094mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	1 有害性情報の報告によって提出されたデータ。 水溶解度：5.95 mg/L (20) 蒸気圧：2.06 × 10 ⁻¹⁴ mmHg (25)